

イベントオーガナイズ

EVENT ORGANIZE

氏名 板垣祐作 相馬健人

Name Itagaki Yusaku Soma Takehito

プロジェクト目標 purpose

函館のイベントを盛り上げ、若者を活気付けてそこから
函館自体を活性化し、函館を生きた“街”にしたい。

We want to heap up the event held in Hakodate, to be able to become active about a young people, to activate Hakodate itself from there, and to make Hakodate into useful “city”.

活動内容 active

前期 → 後期

イベント実施

問題点・改善点

ツールの考案

Webサイトの構想

前期に行った二回のイベントによって、私たちは、宣伝の重要性を再認識した。
また、協力者を多く募ることでイベント自体の規模が大きくなり、さらにイベントの魅力を大きなものにするということを感じた。
この反省を元に後期には大きなイベントを一回行った。
今までは出演者をDJのみに限定していたが、それに加え今回は本学の軽音楽部、Jazzサークルによる演奏や、ダンス部によるダンスなど演目を増やし、VJのリアルタイム映像制御、サウンドイッチの販売などコンテンツを増やしていった。
以上のコンテンツで、12月初頭にイベントを行ったところ、集客は200人近くにのぼった。目標の人数をクリアするといった面で今回は成功したといえるだろう。
また、このイベントを行うにあたって集客に関する検証のほかに、もうひとつの側面があった。
後期の始まりに、今回も含め3回のイベントを行った際にあげられた反省点、改善点、そして経験を用いて何か作れないかと考えていた。
それは、
①これからイベントを行おうとしている人の支援になる。
②イベントを行っている人、イベントに出演している人のコミュニケーションに使える。
③それ自体がイベント、出演者の宣伝、情報提供になる。
といったものであった。
②、③番目の項目から、メディアとしてはWebページを取り上げることにした。

Webサイトの構想 conception

これからイベントを行う人の支援となるツールを作るにあたって、過去行ったイベントを通して自分たちが必要だと感じた機能を盛り込んでいくことにした。
そこで必要と感じた機能を上げていったところ、ほとんどが情報の伝達に関することだった。
まず今回感じた情報伝達に関する問題点として、
①今回は携帯のメールを用いて連絡したが、それを一括で行うことはできないか?
②友達との友達、バンドの知り合いなどには、いざという時に連絡ができないということがあった。
③イベンターの中で、連絡を行う人が複数いた。
④スケジュール等を変更毎に連絡する必要がある。
⑤バンドに連絡をする際にも、学内のバンドのみに連絡をしたい場合などがあった。
⑥メールの返信を待たなければ行動できないことがあった。
などが、挙げられる。
その問題点を解決するためには、
①連絡先を一括管理する。
②管理者を一人のみにする。（権限がある人間が閲覧することは可能）
③連絡先のグループ化。
④重要な連絡（タイムテーブルなどの変更）は自動的に連絡を行う。
⑤簡単に返事（読んだということを送信者に伝える）をする仕組み。
といった機能を持ったWebサイトである必要がある。
また、Webというメディアを生かした宣伝機能やイベンター、出演者、そしてお客のコミュニケーションの場になるような機能が必要になると考えた。外部との関係を持つこれらの機能によって、Webサイトの利用頻度を高める効果を期待している。
以上のことを踏まえてWebサイトの構想を行った。その内容は、イベンター、チーム（バンドやクルー又はアーティスト集団など）、そして個人と3つの柱となるページを持ち、その中でコミュニケーションを図るといったものである。個人はチームに所属し、チームはイベントに参加する。それぞれのイベントにおける役割に応じてページの属性が変わっているのである。
個人ページでは個人の名前などのプロフィールや日記などが載っている。チームページは個人の集まりからなりその中からリーダーを決める。イベンターがバンド等に連絡を行う際は、このリーダーと連絡を行うこととなっている。イベントページも、個人の集まりによって構成され、イベンターのリーダーも設定する。このリーダー（又は特別に管理者を立てる場合もある）が連絡を行い、出演者などの重要な情報を管理することになっている。連絡はWebサイト上のメッセージで行いタイムスケジュールもイベンターのページ（エディットページ）にて編集することになる。
以上がWebサイトの主な構想であるが、ほかにも機能を加わる可能性を考えている。

今後の展望 future

以上のWebサイトはまだ実装段階には至っていないが、とても魅力的なものだと思う。
現在の状況を見てみると、バンドは個々のHPを持っていることもあるがイベンターや個人で活動する人がHPを運営していることは少ない。しかしこういったページがあることで簡単に登録し、自分のページを更新することができるという敷居の低さから利用する人々も増えてくるだろう。
実際にこのモデルのサイトを運営し、函館で活動しているイベンター、バンド、DJが活用するようになれば、Web上だけではなく実際のコミュニケーションの場としてイベントが行われるだろう。そしてこういったイベントを通して函館の若者が活気づき、それがきっかけで街がより活性化されるといった流れが生まれてくることを願っている。

